

G GREENE ニュース

行動する環境アド
バイザーの会報

第57号

環境アドバイザー連絡協議会
代表 須永 徹
平成25年12月発行

大幽洞窟の氷旬(ひょうじゅん)

撮影地 みなかみ町

(撮影 田中 和夫氏)

上州の名山、武尊山の中腹にある小さな洞窟内に、冬季限定で見られる珍しい現象です。

鍾乳洞内には氷柱(つらら)の様に天井から下がって成長する「鍾乳石」と地上から成長する「石筍」がありますが、これと同じ仕組みで成長し50cm位になります。

最近山麓から見学のガイドツアーなども実施されているようです。



群馬県環境アドバイザーの動き (平成25年12月20日現在)

前年度(第8期)の県環境アドバイザーは327名の登録をして頂いておりました。第9期(登録期間:平成24年4月1日~平成27年3月31日)への更新登録者は203名でした、今期の新規登録者を含め平成25年12月20日現在265名です。前期同様、各地で活躍されています



サポセンブログを携帯、スマートフォンで見よう。
左のQRコードを読み込んでね、
スマートフォンの設定でグリーンニュースが見られます。

表紙画像 田中 和夫氏より

- P2 環境政策課より
- P3 須永代表より
- P4 温暖化・エネルギー部会
- P5 自然環境部会
- P6 ごみ部会
- P7 広報委員会
- P8 編集後記、私の一枚



環境アドバイザー第9期も折り返しを過ぎて

(活動内容をお寄せください)

環境政策課 松村 賢一



今回は、環境アドバイザー制度について。第9期も2年目に入り、ちょうど折り返し点を過ぎました。私が担当としてアドバイザー制度に関わらせていただき、まずアドバイザー登録者がたくさんいらっしゃることに驚きました。また、直接関わらせていただいている中で「それぞれが環境に対する強い思いを持ち、意欲的に活動していること」について感心させられました。

群馬県では、例年各種研修会を開催しておりますが、私もおかげさまで様々な方の環境への思いを感じ、また、お話をさせていただいております。ただ、研修会などに参加されたりして、顔を見せてくださっている方たち以外は、あまり接点も無い方が多く、その活動内容などを知ることが出来ていないのが現状です。皆さんの間でもそうなのではないでしょうか。

そこで、グリーンニュースの紙面でアドバイザーの皆さんが活動する姿を他の多くの方に伝えていきたいと考えております。是非皆さんの普段の環境活動について様子をお聞かせください。寄せられた活動報告は、広報委員会グリーンニュース編集委員と相談の上、本誌に掲載していきたいと思っております。例えば、生活に根ざした些細なことでも構いません、環境アドバイザーとしての活躍の姿をお寄せください。様式などは問いませんので、写真1枚に説明1行でも大丈夫です。

ところで、アドバイザーの登録状況を分析すると、60代以上の方が全体の約6割を占めております。お仕事を退職された後に環境アドバイザーとして活動されている方が多いのでしょうか。また、男女比は男性7割、女性3割となっています。地域的には、市部の登録が多いようです。

登録者は随時募集中ですので、お友達を環境アドバイザーに誘ってみませんか。老若男女もちろん問いません。申込書付チラシをお分けすることもできます。

各部会、委員会も随時活動を行っています。これから部会に参加してみようかなという方もあまり緊張せず「ちょっと顔を出してみる」位の気持ちで来てはいかがでしょうか。環境への同じ思いを持っている方がきっと見つかりますよ。

問い合わせ、投稿は下記へお願いします。

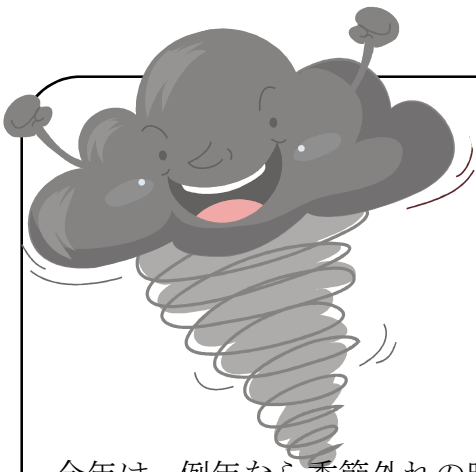
群馬県環境政策課メールアドレス kanseisaku@pref.gunma.lg.jp

郵送送付先 〒371-8570 群馬県前橋市大手町 1-1-1 県庁 16 階北

群馬県環境政策課

TEL 027-226-2821

FAX 027-243-7702



地球温暖化と私たちの生活

群馬県環境アドバイザー連絡協議会

代表 須永 徹

今年は、例年なら季節外れの時期に大型台風が上陸し、大きな被害をもたらしました。日本だけでなくフィリピンやベトナムでも大きなツメ跡を残した台風が通り過ぎました。アメリカでは巨大な竜巻が発生するなど、自然災害を前にしては人類の無力さを感じます。

これらの異常とも思える気象の裏には、地球の温暖化が大きな影響をもたらしていることは、もう疑う余地はないようです。先に発表のあったIPCCの第5次報告書においても、この130年間で世界の平均地上気温は0.85℃上昇しているとの報告がありました。

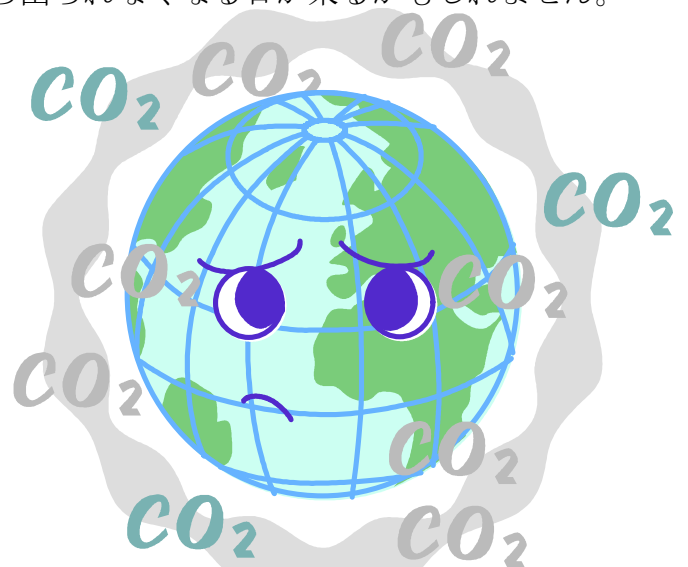
また深海3,000mの海水温も上昇しているとされ、もう温暖化を止めることはかなり難しい状況のようです。

この温暖化の速度を少しでも遅らせ、これ以上の上昇を何とかくい留めることは現在の私達が後世の人達に対する義務であると言えます。

どんな悲惨な事故や事象も、いったん喉元を過ぎれば忘れ去るのが得意であってはなりません。また自分さえ良ければいいという生活態度も改めないといけません。このまま全員が天に向かって唾を吐き続けるような状況が続けば、自然からのしっぺ返しはより大きなものとなって我々に返って来るでしょう。

まずは、あらためての最初の一步。例えば歩いて行けるところは歩くとか、レジ袋を受け取らないことを徹底するとか、地産地消を心がけるとか、環境アドバイザーとしては誰でもできる簡単なことを率先して実行し、周りの方へも広げて参りましょう。

もしかすると近い将来に、お正月に台風で家から出られなくなる日が来るかもしれません。



環境アドバイザーの皆さま

毎日のように温暖化やエネルギーに関するニュースが報道されています。

11月11日から福島県沖で浮体式洋上風力発電が運転開始されました。来年度の運転と合わせると浮体式としては世界最大になるとか。同12日からは大手自動車会社の共同体によるEV充電器の補助が受付開始されました。詳しくは <http://tnhm-juuden.com/> でご確認を。

同13日には改正電気事業法成立のニュースもありました。

そんな中、COP19（気候変動枠組条約締結会議）にて日本の2020年までの温室効果ガス削減目標が発表されました。

2005年対比で-3.8%。これは1990年対比では実質+3.1%だそうです。世界の環境保護団体で組織する「気候行動ネットワーク」から温暖化対策に消極的な国に贈られる「化石賞」をいただきました。

でも・・・

我々温暖化エネルギー部会は確実に進化しています。現在14名がメーリングリストに登録し、連絡を取り合っています。また「掲示板」にて書類を掲示することも可能になっています。部会の方はぜひご登録ください。地域の様々な情報がわかりますよ。

登録方法は前回も書いた通り。（chitomi@sokusetu.com）までメーリングリストに登録希望と書いてメールを送ってください。

（温暖化エネルギー部会長 田口 勇夫）



地球温暖化防止隊長ぐんまちゃん

「見直そう、群馬を」

日本の自然環境の美しさのキーワードは「山」と「川」であり豊かな「水」に恵まれ日照時間も長く作物の成長にも良い条件が揃い暮らしやすく人もとても親切です。

群馬は東国文化のふるさとと云われています。その中で古墳時代を中心に現在の関東地方で栄えた文化を「東国文化」といいます。当時の日本は近畿地方が政治・経済・文化の中心地でしたが、群馬の地域はヤマト王権と連携した大きな勢力が形づくられ、仏教や文字文化が早くから発達し経済的にも文化的にも当時の東日本をリードする先進的な地域でした。その背景には今と同様に交通の要である群馬の地の重要性と中国大陸や朝鮮半島の文化や技術の伝来が大きな役割を果たしていました。

堂々とした姿を誇る巨大古墳、ヨロイをつけた武人や祭祀を行う巫女の埴輪、鏡や冠などの豪華な出土品、住居跡など多くの歴史文化遺産が残されており。なぜ日本最大の古墳大国になったのか、群馬が果たした大きな役割を知り興味を持ちながら調べてみて下さい。古墳時代まで日本には馬がおりませんでした。これを拓げたのも群馬からです。

機会があれば続編を、と考えております。

(自然環境部会長 宮崎 亮二)



群馬県

REDUCEのころ

REDUCE、REUSE、RECYCLEの3Rですが、中でもREDUCEが特別に重要であることは、多くの方が語るとおりだと思います。しかし、その具体策はあまり語られてないような気がするの、私ばかりでしょうか？

REDUCE（リデュース）とは発生抑制（ごみの排出を減らすこと）、すぐにごみになるようなものをつくらない、買わないことにより、ごみを減らすことです。

具体的には

- ① ごみは8割以上が水分なので（堆肥などにリサイクルするのが良いが）燃えるごみとして出す場合は、水分を乾燥させてから出す。最低でも水をよく切ってから出す。
- ② 買い物にはマイバッグ（マイバスケット）を必ず持参し、レジ袋をもらわないようにする。
- ③ 食料品は、必要なものを必要な量だけ買うようにし、手つかずのまま捨てたりしない。
- ④ 宴会、会食などでは、食べ残しのない様にする。（場合によっては持帰る）
- ⑤ エコクッキングを励行する。
- ⑥ 使い捨て商品や過剰包装の商品は、なるべく買わないようにする。
- ⑦ リターナル瓶（牛乳瓶、ビール瓶、一升瓶など）をなるべく使用する。
- ⑧ 一時的にしか使わないものは、買わないで借りてすます。
- ⑨ イベントなどでは、リユース食器を活用する。（紙コップ・トレーなどのごみを出さない）
- ⑩ ペーパーレスを推進する。（パソコンなど）

以上、思いつくまま挙げてみましたが、いずれも、そう難しくないことばかりです。『食べ物を粗末にしないで、物を大切に使う、もったいないと思う気持ち』『ちょっとした手間や工夫を惜しまない生活スタイル』『地域やコミュニティのつながりを大事にする心』などが広がってゆけば、それがREDUCE（リデュース）になるのではないのでしょうか。

（ごみ部会長 山田 一朗）



「3R（スリーアール）」は、「リデュース」、「リユース」、「リサイクル」の英単語「Reduce」、「Reuse」、「Recycle」のそれぞれの頭文字からなり、循環型社会をつくるためのキーワード（合い言葉）です。

ぐんま 3R 推進

検索

～私にできること～ 【制服リユース】

去年アドバイザー登録をさせて頂きました。

同じ矢中地区に住む秋山一郎さんに「どうか子ども達に環境の大切さを伝えて欲しい。勉強になるから是非！」とお誘い頂き登録に至りました。

環境に対する知識も活動も何もない私でしたが、今年の3月に環境アドバイザーという立場でごみ減量のための「制服リユース」を地域に呼び掛け、実施致しましたので報告させて頂きます。

今我が子が通う中学校でPTA役員をしているのですがPTA会長の「何か新しい事業をしませんか？」の一言がきっかけでした。ママ友達との「この前、体操服がごみに出されていたよ。もったいないね～」という会話を思い出し、制服・体操服のリユースを思い付き、提案しました。周囲のウケは良かったのですがPTAでの実施とはなりませんでした。

諦められない！どうにか実現したい！…

「そうだ！環境アドバイザーとして個人的にやってみよう！」と思い付き、3月の卒業シーズンに「ごみ減量」を謳い文句に、不要になる制服の提供を回覧で呼び掛け、公民館を借りて実施に至りました。

突然の新しい事業ではありましたが、提供して頂いた小学校・中学校の制服・体操服は100着を越え、譲渡は開場前から開始を待つ列が出来、30分ほどで殆どがなくなってしまいました。



今年度は、子ども会育成会がその時期に初めての子ども向けフェスティバルを計画しているので、その場で制服リユースを実施する予定です。今後も毎年恒例の事業とし、ごみ減量に一役買いたいと思っています！



(広報委員会 高橋 いよ子)

<皆さんの投稿をお待ちします・編集後記にかえて>

県環境政策課の松村氏から会員諸氏の活動について知りたいとの投稿がありました。部会・地域としての活動は本誌に載せていますので、それ以外の日常の活動について簡単で良いので投稿をお待ちします。また「私の一枚」と言った内容での写真もお待ちしています。コメント無しでもかまいません。今回は試みに高崎地区での啓発活動の写真を掲載してみました。

地域情報を充実させるための方法として「地域通信員・仮称」と言った制度を設けることも考えていますので、その際にはよろしくお願いします。

(広報委員長 田中 和夫)

「私の一枚」

10月12日(土) イオンモール高崎にて、「レジ袋削減店頭啓発」のお手伝いの様子。



投稿 (群馬県環境アドバイザー高崎地区会 高橋いよ子)